

2023年2月17日

課題名：非小細胞肺癌患者における術後翌日の歩行可否が短期的なアウトカムに及ぼす影響

◆研究の目的と概要◆

当院では、肺癌手術翌日における歩行練習実施有無が、手術後の合併症等に影響を及ぼすかどうかについて調べています。本研究では、患者さんの負担を軽減したリハビリテーション実施を目指し、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2021年1月から、2023年1月までの間に、肺癌(非小細胞癌)であると診断され外科的手術を施行された方。

◆研究に使用される情報◆

年齢、身長、体重、疾患名、既往歴、術式、術前に測定した Short Physical Performance Battery (バランス検査)、6分間歩行試験における歩行距離、最少のSpO₂値、最大の脈拍数、修正Borg Scale(息切れの指標)、術後の合併症有無、手術翌日の離床状況(理学療法介入時の歩行有無、日中の離床有無)、術後に測定した6分間歩行試験における歩行距離、最少のSpO₂値、最大の脈拍数、修正Borg Scale、胸腔ドレーン抜去までの日数、在院日数、在宅酸素導入有無、嘔気、疼痛、輸血、手術時間、出血量、麻酔時間、性別、入院日、手術日、退院日、術前のPS(Performance Status:活動性を示す指標)、術前肺機能検査の結果、ppoFEV_{1.0}(手術後に予想される呼吸機能)、喫煙歴、肺癌のStage分類、握力、酸素療法離脱までの日数、術後1日目のP/F比(呼吸状態の指標)

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録(カルテ)等からの情報を利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院
リハビリテーション部 研究責任者 倉田和範
E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)
(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明